

# RE:BIRTH

The project to revitalize the central city area of Yorii town

歩きたくなる、歩いてお得なまちを目指して。



寄居町中心市街地活性化事業

平成30年度 - 令和4年度



埼玉県寄居町



2024年発行

寄居町プロモーション戦略課

# 賑わい創出の拠点

新たな「町の顔」として



## 寄居駅南口駅前拠点施設「Yotteco」～町の魅力発信と回遊促進～

『寄居町中心市街地活性化基本計画』における、ハード事業の核として完成した「寄居駅南口駅前拠点施設」。建物を囲むスロープと屋上の展望デッキなど、斬新なデザインが目を引きまします。「Yotteco」(ヨッテコ)と名付けられたこの施設は、町の観光、賑わい創出の拠点となり、新たな町の顔として、来訪者を出迎えます。Yottecoには、観光案内、移住定住相談、喫茶コーナー、物販コーナー、多目的スペース、待合スペースなどを設置しました。町の魅力を発信・PRする場として、まちなかへの人の流れを創り出します。また、地域の憩いの場所として、日常的に利用していただくことはもちろん、さまざまなイベントなどに活用していただけます。ぜひ、気軽に立ち寄り、お気に入りの楽しみ方を見つけてください。

## 120年ぶりのリニューアル 生まれ変わった寄居駅南口から町の活性化へ

埼玉県北部に位置する寄居町。町の中心市街地は、江戸時代から交通の要衝として栄えた歴史を持ち、市街地の南、町の中心部を流れる荒川沿いは、その風光明媚な景観から多くの文化人に愛され、発展してきました。

時代と共に、都市の空洞化が進む中、寄居町も例外ではなく、市街地の人口は減り続け、かつて、町の中心地として賑わった商店街も、空き店舗や空き家が目立つなど、次第に元気を失っていきました。

寄居町では、平成29年度に『寄居町中心市街地活性化基本計画』を策定し、平成30年3月に全国の町村では、初めて国の認定を受けました。平成30年度から令和4年度までの5か年にわたり、寄居駅南口の66.6ヘクタールの区域を対象に、賑わいを取り戻すため、さまざまな事業を集中的に進めてきました。

この間、ハード事業では、半世紀にもわたる懸案事業であった、寄居駅へのアクセス道路である都市計画道路中央通り線を拡幅し、一方通行の解消及び電線の地中化を実施しました。さらには、寄居駅南口駅前広場、駅前拠点を整備し、寄居駅南口は、寄居駅開業以来120年ぶりのリニューアルとなり、新たに生まれ変わりました。



平成 28 年 5 月	株式会社まちづくり寄居設立
平成 30 年 3 月	「寄居町中心市街地活性化基本計画」内閣総理大臣認定
平成 30 年度	事業着手
平成 31 年度/令和元年度	事業用地買収着手
令和 2 年度	寄居駅南口駅前広場、都市計画道路中央通り線着手
令和 3 年度	寄居駅南口駅前広場完成、寄居駅南口駅前拠点施設、賑わい創出交流広場着手
令和 4 年度	都市計画道路中央通り線、寄居駅南口駅前拠点施設、賑わい創出交流広場完成
令和 5 年 4 月	寄居駅南口駅前拠点供用開始

# ハード整備から見る「まちびらき」

～中心市街地の懸案解消と賑わい創出～



## 都市計画道路 中央通り線

～寄居駅南口への大動脈～

片側一方通行の寄居駅南口へのアクセス道を整備し、2車線の相互通行が可能になり、寄居駅南口と鉢形城跡が一直線に結ばれました。幅約16mの道路には、ゆとりのある歩道を設置し、また、官民連携による街路樹の維持管理を予定しており、駅利用者の利便性ととも、景観の面からも市街地の回遊性を向上させます。

## 賑わい創出交流広場「YORIBA」

～立ち寄りたくなる憩いの広場～

駅前拠点の南側に整備した広場「YORIBA」(ヨリバ)。この広場は、パラソル付テーブルベンチなどを設置した、人が憩い、交流し、賑わいを生み出す広場になります。また、イベントの開催やお祭りでの活用だけでなく、地域の防災機能を担うなど、さまざまなシーンでの活躍が期待されます。



## 寄居駅 ～町の玄関口として～

1901年(明治34年)に開業した寄居駅。秩父方面と都市部の中継地として栄えた駅周辺は、多くの人が行き交い、さまざまな産業を支えてきました。現在でも、鉄道が3線乗り入れる交通の要衝として、通勤、通学をはじめ、生活に欠かせない役割を担っています。寄居駅南口周辺の整備とともに、南口の外装工事が完了し、リニューアルした町の玄関口として来訪者を迎えます。



## 路地を生かした散策ルート「雀小路」

～風情を感じる散策道～

中央通り線の裏路地、通称「雀小路」。寄居駅南口から本通り線までの路地を整備しました。歴史情緒のあるまちなみの景観と調和する石畳風の舗装に仕上げ、どこか懐かしく、趣を感じられる散策道に生まれ変わりました。駅から正喜橋へと続く道として賑わっていた当時の風情が残る、まちなか散策の入口とも言える小路です。



## 寄居駅南口駅前広場

～駅利用者の利便性向上～

寄居駅南口駅前広場には、ラウンドアバウト(環状交差点)を整備し、令和3年7月に開通しました。ラウンドアバウトの中心には、時計塔を設置し、鉢形城のかがり火を連想させる、寄居町のシンボルのひとつとなりました。

# 寄居タイムスリップ

～写真で見る市街地の変化～

## 中央通り線



昭和  
40年代

通り沿いに金融機関や商店が軒を連ね、人通りが多く、賑わっていたことが伺えます。半面、歩道がないことや一方通行であったことから、安全性と駅へのアクセスに課題がありました。



令和  
4年

約半世紀の懸案であった整備が完了しました。整備により、対面通行が可能な車道と安全な歩道になりました。正喜橋通りまで一直線に見通せるようになり、駅南口へのアクセスが向上しました。

## 商店街



昭和  
40年代

多くのヒト・モノが行き交う、全国でも指折りの商店街と言われていました。通りに面した間口が狭く、奥行のある「うなぎの寝床」のような土地割にたくさんの商店が立ち並びました。



令和  
4年

昭和40年代と比較すると、店舗数は減少したものの、現在も魅力的な店舗が残っています。当時の昭和モダンが、現在では昭和レトロ口として感じられる商店街となっています。

## 寄居駅



昭和  
20年代

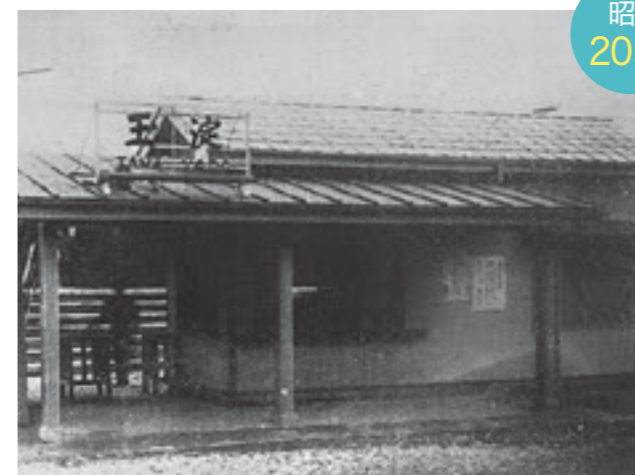
約120年の歴史がある寄居駅。鉄道が3線乗り入れる寄居駅は当時から交通の要衝として、地域に欠かせない役割を担っていました。



令和  
4年

駅前広場や中央通り線などの整備により、駅前の景観は大きく変わりました。南口は、外装工事により、変わりゆく南口駅前のまちなみに調和するデザインに生まれ変わりました。

## 玉淀駅



昭和  
20年代

本通り線の始まり、商店街への入口に面する名勝玉淀の内玄関として、昭和9年に開業し、休止、廃止期間を経て昭和26年9月に再開業しました。当時はモダンな駅舎に注目が集まりました。



令和  
4年

令和元年に改装され、現在の駅舎になりました。シックなデザインの駅舎は、昭和から継承されています。玉淀遊歩道などの整備によって、名勝玉淀の魅力がより身近になりました。



寄居駅南口の景色が大きく変わりました。中央通り線の整備により、一方通行の道路が対面通行可能な幅約16mの道路に生まれ変わり、寄居駅南口へのアクセスとともに、回遊性が向上しました。

# 寄居町を振り返る

平成～令和 — Heisei～Reiwa —

昭和から続くインフラや公共施設の整備が進み、都市基盤が強化され、人口が増加し、ピーク時には3万8千人を超えました。その後、徐々に減少し、令和5年1月現在では、約3万2千人となっています。産業面においては、平成25年にホンダ寄居工場が本格稼働し、令和4年には工場の集約化が行われました。平成30年に全国の町として初めて、『寄居町中心市街地活性化基本計画』が国からの認定を受け、事業に着手しました。5か年の当計画は、令和4年度に最終年度を迎え、計画の核となる、駅前拠点施設「Yoteco」(ヨッテコ)や賑わい創出交流広場「YORIBA」(ヨリバ)が令和5年春に供用開始となり、町の新たなスタートとなりました。



川の国埼玉はつつプロジェクトにより、荒川沿いの玉淀河原や雀宮公園周辺の整備が完了しました。住民の散歩コースとして、また、中心市街地への来訪者が立ち寄るスポットとして賑わいを生み出しています。



寄居駅南口は、駅前拠点をはじめ、中央通り線、ラウンドアバウトなどの整備が完了し、新たな「町の顔」として生まれ変わりました。



平成6年に完成した寄居町役場の現庁舎。平成初期には、庁舎をはじめ、体育館や図書館の整備など、時代の変化に応じた町民のニーズに対応するため、公共サービスの組織、体制の強化が図られました。

# 寄居町を振り返る

昭和 — Showa —

日本が世界的に注目されるほどの高度経済成長を遂げる中、当時の寄居町の人口は、2万7千人ほどでしたが、昭和40年代から徐々に増加し、昭和59年には、約15%増となりました。当時の町には、市街地と農村部をどのように結びつけるか、といった課題がありました。荒川により分断される地区の利便性の向上が求められ、昭和32年には、新正喜橋、昭和55年には、玉淀大橋が完成したことで、荒川の北側と南側の地区間での経済的・地域的な結びつきが強化されました。一方で、交通網の発達により、商店街から郊外へと商圏が変化し、大きく拡大を続けていた商店街は、転換期を迎えました。町の公共施設としては、インフラや行政サービスの拡充のため、さまざまな整備が進められ、生活の利便性が向上しました。



昭和34年には、天皇・皇后両陛下を迎えて、金尾・鉢形地区で植樹祭が開催されました。写真は、本通り線にて、両陛下を乗せた車を多くの人々が迎える様子です。



昭和30年代の異常渇水の際には、自衛隊の給水車が出動しました。写真は、本通り線です。



昭和20年代の寄居駅南口駅前を秋祭りの山車が巡行する様子です。景観は大きく変わりましたが、祭りの賑わいは変わりません。



旧正喜橋は、大正9年に架けられました。当時は「関東一の吊り橋」と言われ、昭和32年に新正喜橋が完成するまで、地域の生活に重要な役割を果たしていました。

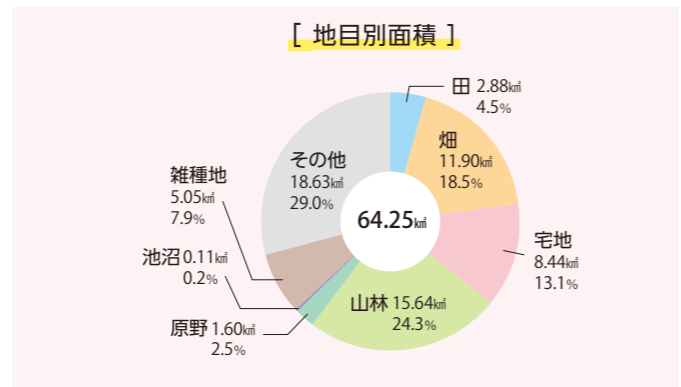
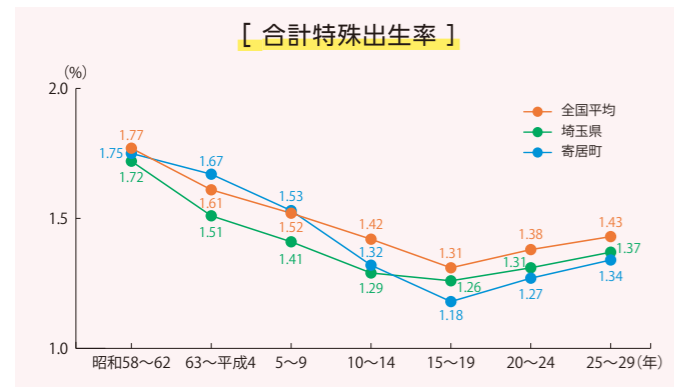
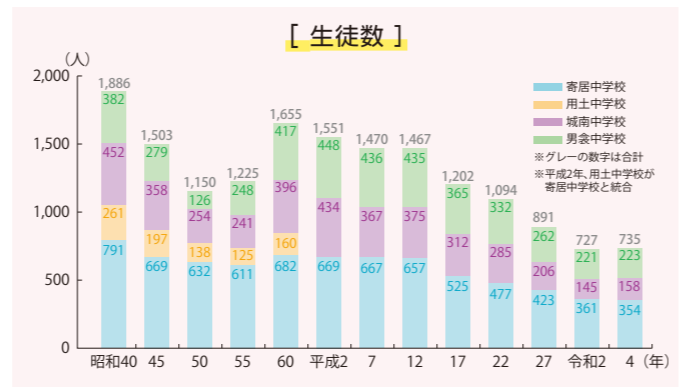
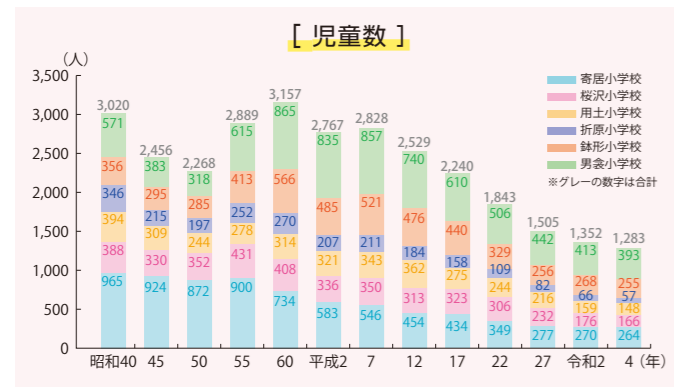
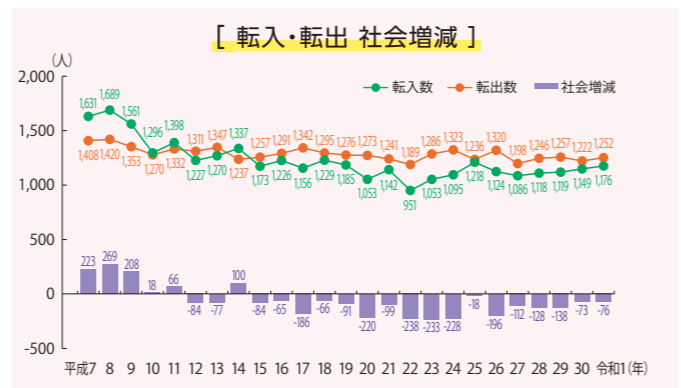
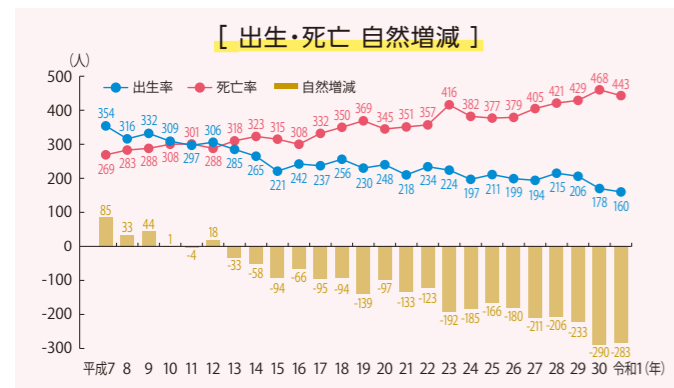
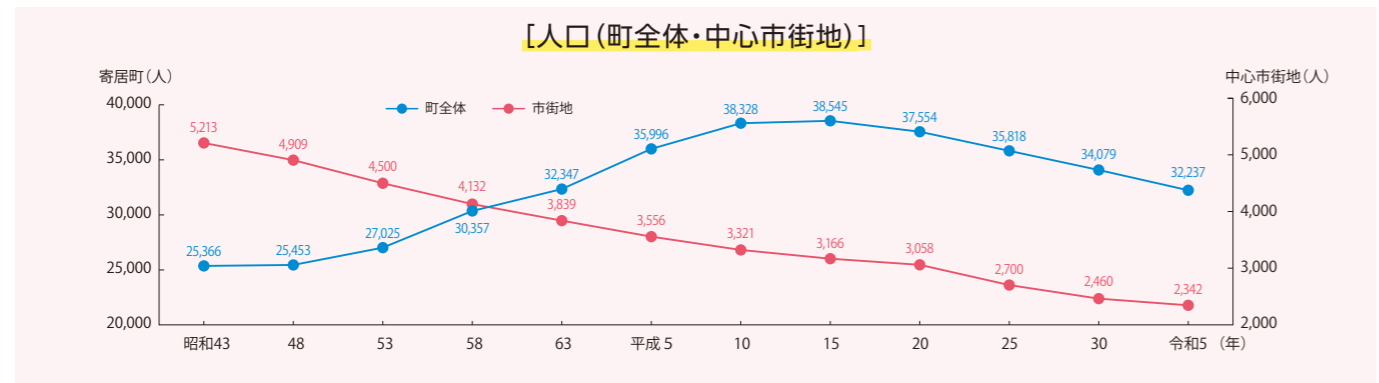
年	主な出来事
平成元年	天沼大橋開通
	新寄居中学校開校
	桜沢駅開業
	町政施行100周年記念事業実施
平成2年	総合体育館・アタゴ記念館完成
平成3年	日本の里「風布館」開館
平成6年	寄居町役場新庁舎完成
	城南中学校完成
平成9年	埼玉県立川の博物館開館
	保健福祉総合センター「ユウネス」完成
平成11年	新寄居町立図書館開館
平成16年	鉢形城歴史館開館
平成17年	国道140号寄居皆野バイパス全線開通
平成18年	新寄居保育所完成
平成21年	寄居城北高校開校
平成22年	新男衾コミュニティセンター完成
平成24年	用土コミュニティステーション完成
平成25年	農産物加工施設「里の駅 アグリン館」完成
	ホンダ寄居工場完成
平成27年	皇太子殿下を迎えて全国育樹祭お手入れ行事開催
	東武東上線鉢形駅リニューアル
平成30年	「寄居町中心市街地活性化基本計画」が内閣総理大臣認定を受け、中心市街地活性化事業に着手
	花園消防署寄居分署完成
令和元年	新男衾保育所完成
令和2年	東武東上線みなみ寄居駅完成
	東京2020オリンピック柔道女子金メダリスト 新井千鶴選手のゴールドポスト設置
令和3年	都市計画道路中央通り線車道部開通
令和4年	寄居駅南口駅前拠点完成、都市計画道路中央通り線歩道部完成、寄居町中心市街地活性化基本計画「満了」

年	主な出来事
昭和30年	新寄居町誕生(寄居町・折原村・鉢形村・男衾村・用土村が合併)
昭和31年	第一回合併記念駅伝実施
昭和32年	新正喜橋開通
昭和34年	天皇・皇后両陛下を迎えて御植樹祭・御播種
	城南中学校開校
昭和35年	異常渇水のため自衛隊給水車出動
昭和37年	埼玉県立寄居高等学校開校
昭和39年	玉淀ダム完成
昭和40年	商工会館完成
昭和41年	寄居町営体育館完成
昭和42年	第22回国民体育大会(埼玉県体)開催
昭和45年	桜沢小学校新校舎完成
昭和46年	正喜橋に歩道を設置
昭和48年	国道140号寄居バイパス一部開通
	寄居警察署新庁舎完成
昭和50年	第一回産業祭開催
	寄居小学校新校舎完成
昭和55年	国道140号・254号玉淀バイパス・玉淀大橋開通
昭和56年	中央公民館完成
昭和57年	総合社会福祉センター「かわせみ荘」完成
昭和58年	寄居橋上駅舎完成
	「玉淀と水天宮祭」が「ふるさと埼玉百選」に選定
昭和60年	勤労福祉センター完成
	新寄居橋開通

# 統計データ

～数字で見る寄居町～

さまざまなデータから見る寄居町。時代の流れとともに、景観や雰囲気の変化を感じることがありますが、町の内面とも言える部分を数値化し、可視化することで、今後のまちの展望や取組の方向性が見通せます。



# 暮らしの変化

～商店街と玉淀河原～

まちなかの台所であり、経済の中心となっていた「商店街」と、多くの人々が憩い、親しまれてきた「玉淀河原」は、中心市街地の暮らしに深く関わってきました。その景観や雰囲気は変化しましたが、町民に愛される場所であることは、今でも変わることはありません。

— 商店街 昭和20年代～40年代 —



秩父と熊谷などを結ぶ交通の要衝として、通行量が多く、商店街は活気に満ちていましたが、国道140号バイパスの開通に伴い、通行量が減少したことにより、店舗の郊外化が進み、商店街の空洞化が深刻になりました。

— 商店街 令和4年 —



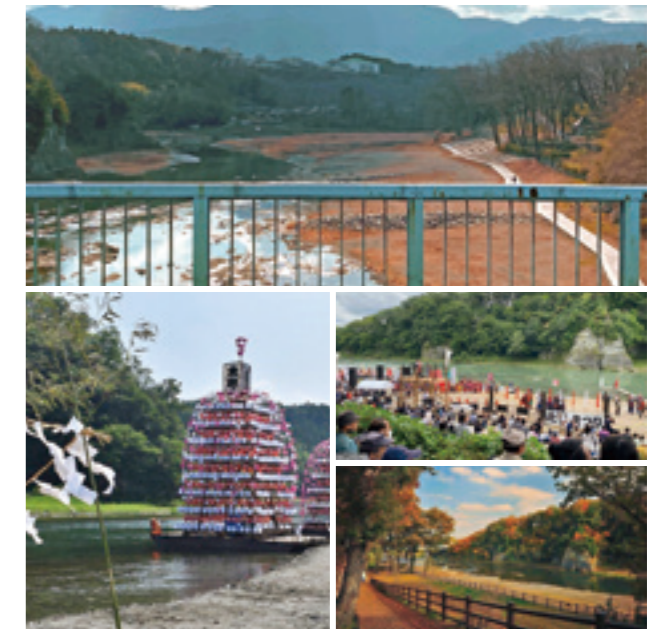
昭和、平成と比較すると、店舗数は減少したものの、空き店舗を活用した新規出店者が増えるなど、賑わい再生の兆しが見られます。今後、駅前拠点のオープンなど、町の変化により、商業、経済の中心として生まれ変わると期待されます。

— 玉淀河原 昭和20年代～40年代 —



昭和10年に県指定名勝となった玉淀河原。多くの文人が訪れるなど、風光明媚な景観が多くの人に愛されていました。昭和32年には、現在の正喜橋が完成し、荒川両岸の交通利便性が向上し、地域間の交流が深まりました。

— 玉淀河原 平成30年～令和4年 —



地域の憩いの場所として、また、北條まつりや玉淀水天宮祭の開催地として、現在も変わらず地域に愛されています。遊歩道や雀宮公園などの玉淀河原周辺の整備により、まちなかの散策がより楽しめるようになりました。